

下水汚泥からの再生リン回収事業及び肥料化への取組について



下水道河川・水道・交通委員会
令和7年6月2日
下水道河川局

本市では、これまでも下水道資源の有効活用に積極的に取り組んできましたが、新たにリン成分を多く含む下水汚泥からリンを再生リンとして回収し、配合した肥料を活用する取組を進めています。この取組を通して、食料安全保障の強化や農業の持続性向上のみならず、地域活性化の観点においても重要な循環型社会の構築等につなげていきます。

1 再生リン回収事業の概要

(1) 事業の概要

令和4年度に本市と月島JFEアクアソリューション株式会社との共同で、下水汚泥から効率的にリンを回収する技術を国土交通省の下水道革新的技術実証事業（通称B-DASHプロジェクト）に応募し、令和5年2月28日に採択されました。令和6年3月27日には実証施設が完成し、国からの2年間の委託研究として再生リンの回収を試験的に始めています。



回収リン回収施設外観

(2) 再生リン回収施設の概要

①施設設置場所

北部汚泥資源化センター（鶴見区末広町1丁目6-1）

②生成規模

再生リン生成量：最大約110kg/日（約40t/年）

2 再生リン肥料化の取組

(1) 再生リンの肥料利用促進に関する連携協定

回収した再生リンを配合した肥料の製品開発・製造や市内での農業利用等の促進に向け、J A横浜、J A全農かながわと令和5年7月に連携協定を締結し、取組を進めています。

【協定における代表的な役割】

- 横浜市 再生リンの供給等
- J A全農かながわ 肥料の製造等
- J A横浜 肥料の流通等



(2) 肥料登録

「肥料の品質の確保等に関する法律」で義務付けられている届出を農林水産省に行い、令和6年6月25日には、本市が申請した再生リンの肥料登録が完了しました。令和6年8月26日には、J A全農かながわが申請した再生リンを原料とした混合肥料の肥料登録が完了し、肥料製造を開始しています。

(3) J A横浜と連携したPR

- 出前講座 洋光台第四小学校へ再生リン回収事業について出前講座を実施
- 横浜農場市庁舎直売でのPR
再生リン回収事業の紹介や再生リン入り肥料の配布
- 横浜フラワー&ガーデンフェスティバル2025
再生リンサンプルや試験栽培で収穫した野菜の配布



横浜フラワー&ガーデンフェスティバル2025
ブース出展の様子

3 再生リン入り肥料の農業利用

昨年11月までに回収した再生リン約4tをJ A全農かながわに提供し2月には農業への利用を開始しています。

(1) 肥料生産量 2,200袋（20kg/袋、44,000kg）

(2) 配布先 1000名を超えるJ A横浜の組合員
（野菜部や花き部等所属）

みどり環境局農業振興課（横浜市児童遊園地ほ場）

(3) 栽培品目 サツマイモ、タマネギ、小松菜、桜の苗木等

(4) 再生リン入り肥料を活用した「浜いも」プロジェクト

J A横浜の野菜部に所属するサツマイモ農家の有志が集まり、昨年から取り組み始めたプロジェクトです。同プロジェクトで栽培するサツマイモは、再生リン入り肥料を活用したもので、「浜いも」としてブランド化を目指しています。



横浜市児童遊園地のほ場での施肥の様子



「浜いも」プロジェクトメンバー

4 再生リン入り肥料の公園利用

市内公園や里山ガーデン等の花壇でも再生リン入り肥料を活用しています。再生リン入り肥料を施肥した花壇には、順次「はま巡リン」の看板を掲示し、「はま巡リン」のロゴの他に本市ホームページへアクセスできる二次元バーコードも併せて表示するなど、本取組のPRを進めています。



里山ガーデン正面入口広場内花壇



横浜市児童遊園地花壇

下水から回収した
再生リンについて
詳しくはこちら



5 再生リン入り肥料の GREEN×EXPO 2027 での活用

GREEN×EXPO 2027での活用に向け、国際園芸博覧会協会へ再生リン入り肥料を提供し、植栽試験を行っています。植栽試験は、最新の植物情報の収集や、会場で想定される植物の維持管理等での適性確認を目的に同協会が実施するものです。この植栽試験の一環として再生リン入り肥料と従来の肥料を比較し、花壇の基肥としての効果を検証しています。

6 今後の取組

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 令和7年8月 | 下水道展@インテックス大阪（東京都、神戸市、福岡市合同出展） |
| 10月 | 秋の里山ガーデンフェスタにおけるPR |
| 令和8年 | 農家向けに再生リン入り肥料販売予定 |
| 令和9年 | GREEN×EXPO 2027におけるPR |